

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372001756		
法人名	医療法人 尽誠会		
事業所名	グループホーム 尽誠苑 (ほのか)		
所在地	愛知県豊橋市大脇町大脇ノ谷74-54		
自己評価作成日	平成24年11月8日	評価結果市町村受理日	平成25年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.in/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kan=true&liovosyoCd=2372001756-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成24年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然に囲まれ、窓から四季の移り変わりを楽しんでいた。・法人のお祭りやグループの食事会には、ご家族も参加下さり、交流の場になっている。・毎月入居者の様子や近況を報告しており好評である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設内は広々として、ゆとりがあり、清潔感が感じられる。施設の周りは自然に囲まれ、季節を感じることが出来る、落ち着いた住居となっている。職員はいつも笑顔で利用者に接しており、とても明るい雰囲気である。家族への情報提供が頻繁に行われているので、家族も利用者のことがよく分かり、安心できる体制になっている。利用者の状況の変化や対応について、細やかな配慮がされていて、利用者は、安全にまた、安心して過ごすことが出来る。経営母体が医療法人であり、特に医療・健康面でのサポートが充実しており、隣接する老健施設等との連携していることが特徴となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの玄関に掲示してある。理念に基づいてケアしている。	ユニットの玄関に掲示されている、理念に基づいてケアサービスをされている。出会いを大切にして、利用者同士が仲良く、安全に暮らしていくために、転倒予防などを上げ、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	梅田川の清掃活動への参加や法人のお祭りの案内など行っている。	月に1回、地域の町内会長や民生委員に食事会の案内を発信して、交流の機会を作っている。年に1回中学生の職場体験を受け入れて、地域の中学生と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内に地域包括センターがあり、そちらで行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見を参考にし、ケアに取り組んでいる。	年に6回開催されている。民生委員、社会福祉協議会の職員、家族が参加し現状報告と行事報告している。家族が参加されていることで、より利用者の希望に近いケアサービスが実践できると考える。	新しい意見があまり出ない現状を課題として認識しており、事前に話し合うテーマを参加者に伝えることで、時間を有効に使うことができ、活発な意見交換を今後期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員が行っている。	市の徘徊見守りSOSネットワークに登録し、市の取り組みに協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアのマニュアルがあり、行わないよう取り組んでいる。	各ユニットのドアのカギは昼間はかけていない。夜間は安全のために鍵をかけている。身体拘束をしないケアサービスについて、いつも話し合っている。利用者の安全の確保を最優先にすることを心がけ、安全な方法での身体拘束をしない、ケアサービスに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内にて勉強会あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所カウンターに意見箱があり。苦情窓口も設けている。	利用者の満足度調査を、年に1回施行している。調査の中で家族から外出の回数を月に1回はしてほしいと希望があり、誕生会を兼ねての外出をすると決め、月に1回利用者全員で外出すること実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回面談あり。また、ミーティングにても意見交換あり。	朝と夕方のミーティングにて職員と管理者が意見交換を行い、業務に対する意見や、情報交換をし、業務改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	配慮してくださっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回能力要件表を参考に面談あり。苑内にて勉強会あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加したり、他のグループホームと交換研修を行うこともある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、グループホームでの生活になじめるよう支援している。関わりの中から要望を伺い、過ごしやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員のアセスメントシートを参考に入居時にお話を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員が面談時に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲にて共に家事をおこなったり、生活の知恵等教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙にて本人の様子を伝えている。心地よく過ごして頂けるよう支援の相談や協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会はある。	遠いところからの入所の方が多いので、馴染みの場所への外出はあまりできない。近くに住んでいる友人が施設に訪ねてくることがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係が悪化しないよう職員が仲介に入り、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談員が行っている。退去後も本人や家族にお越しいただける支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握に努めている。	アセスメントの様式の1部に、本人の思い希望、意向を把握する項目があるので、必ず確認している。コミュニケーションを積極的に取るようにして意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にお話を伺っている。日々の関わりの中から得た情報も職員間で共有し、ケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での変化に気付くよう注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りやケアカンファレンスにて行っている。	入所時に必ず、家族や本人に、希望を確認し、介護計画担当者が主となり、介護計画を作成する。3ヵ月毎に必ずモニタリングを行い、本人や家族、職員の意見を介護計画に組み入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やモニタリング、申し送り等から介護計画の見直しに生かしている。情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの受診や他科受診、外出の支援など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて行っている。買い物や受診が主である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主には、協力病院に受診している。症状や希望に応じて他科受診行っている。	協力病院に定期的に通院している。眼科やリハビリ病院など、入院前に、通院していた病院の受診を希望されたときは近くであれば、受診の援助をしている。遠い病院の場合はタクシーを使って自分で外出が出来るよう援助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化ある時は、報告・相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、職員が付き添い状態を報告している。介護サマリーを渡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Dr.と相談し、必要に応じてご家族と話し合いをしている。	重症化した場合の取り決めで入所時から本人と家族に確認し、納得してもらっている。取り決めとしては、医療処置が必要になった時に退所となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や避難訓練を年2回法人で行っている。	施設全体で年に2回防災訓練、避難訓練を実施している。毎月防災委員会が開催されグループホーム担当として参加している。	

自己 評価	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけて対応している。	人生の先輩として尊重し、気分を害する言葉は使わないようにして、気分悪そうな表情をされた時の状況、言葉を覚えておき、その情報をみんなで共有できるように、申し送りノートを活用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望がある時は、話を伺い本人と相談している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで過ごして頂いている。外出の要望は、その日に応じる事が難しい日もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の趣向に応じた支援を行っている。整容面はできるだけ自己にて行い、介助は必要な部分のみ行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りでは、できる事を共に行っている。テーブル拭きや洗い物など行っている。	利用者が高齢になってくことで、日常生活の動作も低下し、日々の食事作りやかたづけは出来なくなってきているが、行事の時のおやつ作りは、みんなが参加して、作るのを楽しまれている。月1回程度は外食レクも実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や嚥下状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況に合わせた支援をしている。入居者の自尊心を損なわないよう排泄確認をおこなっている。	利用者の排泄の時間や習慣を把握して、トイレで排泄が出来るように、声かけや介助をしている。おむつは使わないようにして、排泄はトイレとする気持ちを大切にして援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量を把握し、状態に合わせて摂取して頂いている。嚥下や消化の状態に合わせて食事を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事や職員の人数により入浴できる時間は決まっているが、その範囲内で希望に応じている。気持ちよく入浴して頂けるようお湯の温度や湿度は希望に応じている。	夜や、毎日入りたいという希望はあるも、安全に入浴してもらうために、昼間の時間内に、一日おきに入浴することを理解してもらっている。可能な曜日や時間帯の中で、選んでもらうことで、出来る限りの希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に居室で休んで頂いている。布団や枕は各々の希望を聞き対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書があり理解に努めている。症状の変化ある時はDr.へ報告しケアについて相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を共に行ったり、近隣への散歩、興味のある同好会へ参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に応じる事は難しいが、近日中で希望に応じられるよう考慮している。他科受診など家人に協力を得ている方もいる。	当日に外出を希望されたときは、すぐ対応はできないので、施設内の喫茶店に出掛けられている。外出先や食事などは、利用者の希望を取り入れて、月に1回は必ず外出が出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は、基本的にお断りしている。強く所持を希望する方は、紛失する可能性がある事や他者とのやり取りの禁止を家人より了解得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の許可を頂いている方は、居室内に電話がある。希望時は手紙を出す援助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や同好会の作品を掲示している。又季節に合わせた装飾をしている。	共有空間は季節の装飾や写真や生花が飾ってかかる。ホームの周りは自然に囲まれて、静かでさわやかな印象があり、ホールや廊下も広く、利用者はゆったり過ごされていて、居心地の良い環境が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当る場所や気に入った場所に少人数で過ごせるようソファやイスを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を置いたり、過ごしやすいよう装飾している。	利用者の希望を取り入れて、ベットやテレビ、好きな置物や生花が置き、過ごしやすいように、工夫されている。使い慣れたものに囲まれ、生活できるように配慮されて、居心地の良い生活の空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のトイレがわかりにくい方へは、表示している。居室内も各々の状態に合わせた家具の配置がしてあり、自己にて移動が出来るよう配慮している。		